福島で妊娠・出産された方へ

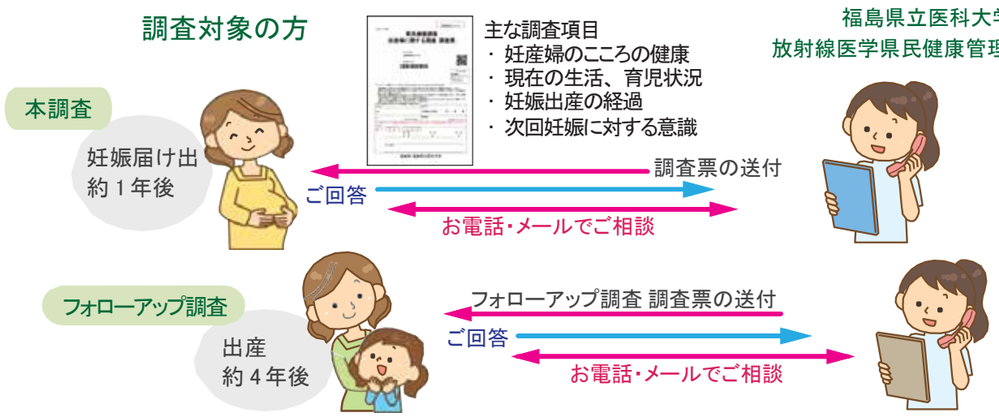
～ 県民健康調査「妊産婦に関する調査」結果 ～

福島県と福島県立医科大学では、妊娠届け出約１年後と出産約４年後に「妊産婦に関する調査」を行っています。皆さまの回答を福島県の子育てサービスの充実に役立てて行きます。

調査の目的

- 妊産婦の皆さまのこころと身体の健康状態を把握します
- 回答いただいた方の中でケアが必要な方を サポートします
- 今後の福島県内の産科・周産期医療の充実に活かします

調査の概要



●平成 30 年度の本調査対象者

①平成 29 年 8 月 1 日から平成 30 年 7 月 31 日に福島県内の市町村から母子健康手帳を交付された方

②上記期間に福島県外で母子健康手帳を交付された方で、 福島県で里帰り出産された方

●平成 30 年度のフォローアップ調査対象者

平成 26 年度調査に回答いただいた方で、 平成 25 年 8 月 1 日から平成 27 年 4 月 23日に出産された方

調査対象者数とご回答数

※平成 30 年 6 月 30 日現在

調査年度	対象者	ご回答数
平成 23 年度	1 万 6001 人	9316 人（58.2%）
平成 24 年度	1 万 4516 人	7181 人（49.5%）
平成 25 年度	1 万 5218 人	7260 人（47.7%）
平成 26 年度	1 万 5125 人	7132 人（47.2%）
平成 27 年度	1 万 4572 人	7031 人（48.3%）
平成 28 年度	1 万 4154 人	7326 人（51.8%）
平成 29 年度	1 万 3551 人	6200 人（45.8%）

出産約４年後に
フォローアップ調査を実施

対象者	ご回答数
7252 人	2554 人（35.2%）
5602 人	2021 人（36.1%）
5734 人	2695 人（47.0%）

ご相談・支援について

調査の回答内容から、支援が必要と思われる方には専任の助産師・保健師等からご連絡いたします。

また、電話やメールを通して不安や悩みに関するご相談も受け付けています。下記お問い合わせ先までご連絡ください。

妊産婦専用ダイヤルへご相談ください

これからも、福島県・福島県立医科大学では、皆さまのこころと身体の健康を見守ります。

公立大学法人 福島県立医科大学
放射線医学県民健康管理センター

妊産婦専用ダイヤル：024-549-5180
（平日 9:00 ～ 17:00）
妊産婦専用メール　：nimpu@fmu.ac.jp

子育て等に関する福島県のサービス（平成30年度）

◆ふくしまの赤ちゃん電話健康相談（一般社団法人福島県助産師会）

福島県助産師会では、育児に関する無料相談や、母乳の放射性物質の検査、子育てサロン、家庭訪問、母乳育児支援（乳房トラブル等）、宿泊ケア・日帰りケアも行っています。ご利用ください。

0120-80-2051（平日 9:30 ～ 16:30）

◆屋内でものびのび遊べるところはないの？

福島　屋内遊び場　検索

◆震災後のふくしまでの子育てについて情報交換したい。

ふくしま子ども支援センター　検索

◆孫育てについて情報を知りたい。

福島県　孫育て手帳　検索

◆女性のからだ、心の悩みを保健師に相談したい。

女性のミカタ健康サポートコール　検索

◆放射線全般の情報を知りたい。

福島　放射線について　検索

福島県こども救急電話相談

（子どもの夜間の急な発熱など）19 時～翌朝 8 時

短縮ダイヤル（固定電話プッシュ回線・携帯電話）

＃ 8000

または（一般ダイヤル回線）

024-521-3790

これまでの調査結果から

これまでの調査結果から分かったことをお伝えします。なお、最新の結果はホームページに掲載しております。

※平成 30 年 6 月 30 日現在のデータです。

☘ 回答してくださった方の半分以上が、これからも妊娠・出産を希望しています。

●「次回の妊娠・出産をお考えですか？」

「はい」と答えた方

全国調査	本調査					
平成 22 年度	平成 24年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度※
51.0 %	52.9 %	52.8 %	57.1 %	53.3 %	54.6 %	52.5%

全国調査:「平成22年第14回出生動向基本調査」結婚10年未満で子どもを予定している割合（既に子どもがいる場合）

「はい」の方で希望が多かったサービス
（平成29年度※）

1 位　保育の充実
2 位　産休・育休等の充実
3 位　育児、小児医療に関する情報やサービス

☘ 早産率、低出生体重児率、先天奇形率は、全国調査の値や一般的な水準と変わりませんでした。

（%）

	早産率		低出生体重児率		先天奇形・先天異常発生率	
	本調査	全国調査	本調査	全国調査	本調査	一般的な水準
平成 23 年度	4.8	5.7	8.9	9.6	2.85	3 ～ 5（2014 産科診療ガイドラインより）
平成 24 年度	5.7	5.7	9.6	9.6	2.39	
平成 25 年度	5.4	5.8	9.9	9.6	2.35	
平成 26 年度	5.4	5.7	10.1	9.5	2.30	
平成 27 年度	5.8	5.6	9.8	9.5	2.24	
平成 28 年度	5.4	5.6	9.5	9.4	2.55	
平成 29 年度※	5.2	—	8.9	—	2.47	

全国調査：人口動態統計における年単位の割合

早産：妊娠 22 週から 37 週未満で生まれた赤ちゃん
低出生体重児：2500g よりも小さく生まれた赤ちゃん

☘ うつ傾向は減ってきていますが、まだ高い水準にあります。

●うつ傾向

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成28年度	平成29年度※
本調査	27.1%	25.5%	24.5%	23.4%	22.0%	21.1%	20.8%

フォローアップ調査（平成 23 年度調査回答者に対して平成 27 年度に実施）→ 25.6%

フォローアップ調査（平成 24 年度調査回答者に対して平成 28 年度に実施）→ 25.7%

フォローアップ調査（平成 25 年度調査回答者に対して平成 29 年度に実施）→ 23.7%

妊娠中から医療施設と市町村との連絡体系ができて、病院で産後うつ健診も始まりました。

☘ 最近は、母親のこころや身体の健康に関する相談が多くなっています。

●主な電話相談内容

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成26 年度～平成29 年度※（同じ順位でした）	平成23 年度のフォローアップ	平成24 年度のフォローアップ	平成25年度のフォローアップ
1位	放射線の心配や影響	母親のこころや身体の健康	母親のこころや身体の健康	母親のこころや身体の健康	母親のこころや身体の健康	母親のこころや身体の健康	子育て関連
2位	母親のこころや身体の健康	子育て関連	子育て関連	子育て関連	放射線の心配や影響	子育て関連	母親のこころや身体の健康
3位	子育て関連	放射線の心配や影響	子どものこころや身体の健康	家庭生活に関すること	子育て関連	子どものこころや身体の健康	放射線の心配や影響

「子育て関連」の具体的な内容は、離乳食、夜泣き、便秘、予防接種など

Q なぜ、平成24年4月2日以降に生まれた子どもは甲状腺検査をしないの？

A 甲状腺がんの発生に関わっているのは放射性ヨウ素です。放射性ヨウ素は事故後 1 ヶ月でほとんどなくなりました。それ以降は放射性ヨウ素はほとんど存在しないため、検査は不要です。
詳しくは以下で検索してください。

県民健康調査　甲状腺検査　検索

Q 離乳食を始める時期と注意点を教えてください。

A 離乳食を始める時期は 5 ～ 6 か月頃が目安になります。個人差がありますので、かかりつけ医や保健師に相談してみましょう。進め方はアレルギーの心配の少ないおかゆ（米）から始め、新しい食品は一さじずつ与え、うんちの色やかたさ、発疹が出ないかなど様子を見ましょう。はちみつは乳児ボツリヌス症を予防するため、満 1 歳まで使いません。
（母子健康手帳より引用）

Q 水道水が心配。ミルクを作るときはミネラルウオーターを使った方がよい？

A 平成 23 年 5 月以降、福島県内の水道水からはヨウ素、セシウムなどの放射性物質はみつかっていません。お店で売っている水をお使いになっても構いませんが、赤ちゃんに使う場合、硬水（マグネシウムやカルシウムが多い水）は適しません。消化のよい軟水を使いましょう。

Q 上の子のやきもちで、毎日イライラしてしまいます。どうしたらいいの？

A やきもちは、上のお子さんの心が成長しているためですが、接し方が難しいこともあります。「あなたも同じ大切な子どもである」ことが伝わるよう、下の子がお昼寝した時は上の子とじっくり遊ぶなど、意識的に上のお子さんとの関わりの時間 がとれるよう工夫してみましょう。また、時には「子育て支援センター」の活用や保育士さんなどまわりの力を借りることも大切です。

詳しい調査結果について

具体的な調査の結果につきましては、以下のホームページでご覧ください。

http://fukushima-mimamori.jp/pregnant-survey/　福島　妊産婦調査　検索